

平成 28 年度

川崎市視覚障害者情報文化  
センター事業概要

川崎市視覚障害者情報文化センター

# 目 次

1	川崎市視覚障害者情報文化センターの概要	
(1)	設置及び事業者	- 3 -
(2)	所在地	- 3 -
(3)	沿革	- 3 -
(4)	施設規模	- 3 -
(5)	根拠法令等	- 3 -
(6)	事業の概要	- 3 -
(7)	組織	- 4 -
2	川崎市視覚障害者情報文化センターの事業について	
(1)	図書館資料の維持管理	- 4 -
(2)	図書館資料等の貸出し	- 4 -
(3)	点字図書、録音図書及び録音雑誌の製作等	- 4 -
(4)	他の点字図書館等との点字図書、録音図書、雑誌等の相互貸借	- 4 -
(5)	サピエへの録音図書、点字図書及び録音雑誌のアップロード	- 4 -
(6)	テキスト DAISY 資料の製作とアップロード	- 4 -
(7)	利用者登録	- 5 -
(8)	「ぶっくがいど」の発行	- 5 -
(9)	プライベートサービスの実施	- 5 -
(10)	点訳者、音訳者及び、DVD映画の音声ガイド製作者の養成	- 5 -
(11)	点訳者及び音訳者の育成・指導等	- 5 -
(12)	視覚障害者訓練事業	- 5 -
(13)	便利グッズの展示と販売	- 6 -
(14)	関係機関・団体との連絡調整	- 6 -
(15)	篤志家報告	- 6 -
(16)	市内のボランティア団体との連絡調整	- 7 -
(17)	その他広報・啓発等の事業	- 7 -
3	平成 28 年度事業のあらまし	- 8 -
(1)	図書館サービスの状況	- 9 -
①	蔵書	- 9 -
②	貸出しを行っている雑誌	- 9 -
(2)	利用者等の状況	- 13 -
①	利用者及び市内の視覚障害者の状況	- 13 -
②	資料の貸出し状況	- 13 -
(3)	プライベートサービスの実施状況	- 18 -
(4)	「ぶっくがいど」の発行状況（個人、団体）	- 18 -

(5) 「アイ eye センターだより」の発行状況（個人、団体）	.....	- 18 -
(6) メールマガジン「アイ eye」の発信状況（個人、団体）	.....	- 18 -
(7) 図書館資料の受入状況	.....	- 18 -
(8) 点訳者の新年会・連絡会及び点訳相談会・校正者会議の開催	.....	- 19 -
(9) 音訳者の連絡会、校正者会議の開催	.....	- 20 -
(10) 音訳者の養成講座の実施	.....	- 20 -
(11) シネマ・デイジーの製作	.....	- 21 -
(12) 表彰	.....	- 21 -
(13) 読書会の開催	.....	- 21 -
(14) 視覚障害者訓練事業の実施状況	.....	- 21 -
① 訓練申請と利用契約の状況	.....	- 22 -
② 訓練生の状況	.....	- 23 -
③ 訓練の年度別の状況	.....	- 26 -
④ 訓練の内訳	.....	- 27 -
⑤ 各訓練の状況	.....	- 27 -
⑥ 相談業務等の状況	.....	- 28 -
⑦ 訓練生懇親会	.....	- 30 -
⑧ 川崎市視覚障害者情報文化センター訓練事業説明会	.....	- 31 -
(15) 視覚障害者用具の展示と斡旋	.....	- 31 -
(16) 広報活動	.....	- 31 -
① かわさき春と冬のコンサート	.....	- 31 -
② 日本とキルギス友好チャリティーコンサート	.....	- 33 -
③ アイ eye センターまつり	.....	- 33 -
④ 平成 28 年度アイ eye 出前センターの開催	.....	- 33 -
⑤ 音声解説付き DVD 映画体験上映会	.....	- 34 -
⑥ 歴史的音源を聴く会「れきおんクラブ」	.....	- 34 -
(17) 啓蒙・普及活動	.....	- 34 -
① 講師派遣の状況	.....	- 34 -
② 関連施設・学校・団体などへの協力	.....	- 36 -
③ 関係機関との連携	.....	- 37 -
(18) 職員の研修状況について	.....	- 39 -
① 訓練関係	.....	- 39 -
② 点字図書館関係	.....	- 41 -
③ その他	.....	- 42 -
(19) 防災対策について	.....	- 42 -
① 避難訓練	.....	- 42 -
② 視覚障害者のための防災セミナーの開催	.....	- 42 -
③ その他（熊本地震被災地へ職員の派遣）	.....	- 42 -

## 1 川崎市視覚障害者情報文化センターの概要

### (1) 設置及び事業者

川崎市

### (2) 所在地

〒210-0026 川崎市川崎区堤根 34-15 ふれあいプラザかわさき 3階

### (3) 沿革

昭和 37 年 11 月 川崎市社会福祉会館内に「盲人図書室」として開設

昭和 43 年 4 月 厚生省から「点字図書館」としての指定を受ける。

昭和 49 年 7 月 「川崎市盲人図書館」と名称を変更。

平成 26 年 4 月 現在地に移転、指定管理先を「社会福祉法人日本点字図書館」とし「川崎市視覚障害者情報文化センター」と名称を変更。

### (4) 施設規模

単位 $m^2$

多目的室 A 1・A 2	68.6	スタッフルーム	49.4
多目的室 B	39.0	生活情報・用具展示ルーム	30.0
対面朗読室	11.2	訓練室	8.9
前室	6.5	相談室	8.9
録音室 小 1	4.7	サービスルーム	120.9
録音室 小 2	3.7	閲覧室	7.6
視覚障害者交流室	14.4	ネットワーク室	12.4
給湯室	3.4	プリント室	12.4
更衣室 1	3.8	廊下	62.2
更衣室 2	3.6	パイプスペース	5.5
視覚障害者配慮 WC	3.8		
合計			476.9

### (5) 根拠法令等

- ・身体障害者福祉法第 34 条「視聴覚障害者情報提供施設」
- ・障害者総合支援法第 77 条「市町村の地域生活支援事業」
- ・身体障害者社会参加支援施設の設備及び運営に関する基準（省令）
- ・川崎市視覚障害者情報文化センター条例

### (6) 事業の概要

本市の区域内に居住・通勤・通学する視覚障害者の更生及び援護育成を図るため、次の事業を行う。

- ・点字図書及び録音図書の閲覧及び貸出しに関すること。
- ・読書用器材の貸出しに関すること。
- ・点訳者及び音訳者の育成指導に関すること。

- ・点字物及び録音物の発行に関すること。
- ・その他、視覚障害者の更生及び援護育成を図るために必要な業務に関すること。

(7) 組織

川崎市視覚障害者情報文化センター

- ・センター長 1 名
- ・利用者サービスグループ・利用者支援グループ・総務グループ 計 12 名

## 2 川崎市視覚障害者情報文化センターの事業について

(1) 図書館資料の維持管理

日々の維持管理に加えて、図書整理期間を設けて修繕、除籍などを実施しています。

(2) 図書館資料等の貸出し

貸出しは、来館、電話、手紙（点字によるものを含みます）、FAX、電子メール、視覚障害者情報総合ネットワークサピエ（以下「サピエ」という）を利用したのオンラインリクエストの方法により受け付けています。

発送による貸出しは、原則として、1日1回行っています。また、希望者には、雑誌（点字、CD及びテープ）の定期貸出しも行っています。

なお、来館及び電話受付は、休館日の月曜日をのぞき、火曜日から日曜日までの午前9時から午後5時までです。

(3) 点字図書、録音図書及び録音雑誌の製作等

全国視覚障害者情報提供施設協会の製作基準に準拠し製作しています。また、ボランティアグループ等からの寄贈図書の受入れも行っています。なお、製作図書の選定は、利用状況等を勘案し、選書会議にて決定しています。

(4) 他の点字図書館等との点字図書、録音図書、雑誌等の相互貸借

主にサピエを通じて、全国規模での相互貸借を行い、他の点字図書館等が所蔵する点字図書、録音図書、雑誌等を借り受けて、当センター利用者へ貸し出すサービスを行っています。

(5) サピエへの録音図書、点字図書及び録音雑誌のアップロード

川崎市視覚障害者情報文化センターの利用者へのサービスだけでなく、全国の視覚障害者へのサービスにも貢献できるように、蔵書情報や蔵書データをアップロードしています。

(6) テキスト DAISY 資料の製作とアップロード

著作権法の改正に基づき、新たなコンテンツであるテキスト DAISY の製作とサピエへのアップロードを行っています。

(7) 利用者登録

氏名、住所、生年月日、広報誌の希望の有無などを電話等で聞き取りのうえ、受け付け、登録しています。

また、利用登録できる方は、川崎市在住、在勤、在学の方で、視覚による表現の認識に障害のある方です。

なお、2年に一度、登録情報の更新を行っています。

(8) 「ぶっくがйд」等の発行

新刊情報のほか、視覚障害者へのタイムリーな情報を掲載し、墨字版、点字版、デージー版を作成し、偶数月初旬に発行しています。同じく月2回メールマガジン『アイ eye』の発刊と、奇数月中旬には「アイ eye センターだより」墨字版、点字版を作成し発行しています。

(9) プライベートサービスの実施

個人的なニーズに応えるため、次のようなサービスを提供しています。

No.	サービス名称	内容
①	点訳	蔵書にない図書の点訳をします。
②	点字プリンティングサービス	点字データを点字プリンタで打ち出します。
③	音訳	蔵書にない図書、希望の資料（電気製品の取扱い説明書など）を音訳します。
④	対面朗読	蔵書にない図書をその場で読み上げます。
⑤	読書用機材貸出し	デージー図書再生機の貸出しを行います。

※「読書用機材貸出し」について

川崎市視覚障害者情報文化センターの所蔵のデージー図書を聞くためには、専用の機器が必要ですが、購入までの試用として、1ヶ月を目安に貸し出しています。

(10) 点訳者、音訳者及び、DVD映画の音声ガイド製作者の養成

隔年で点訳者及び音訳者の養成講座を実施しています。

また、DVD映画の音声ガイド製作者の養成を行なっています。

(11) 点訳者、音訳者の育成・指導等

技術向上のための研修や研究会を実施・支援しています。

また、点訳者及び音訳者の管理とともに活動実績の管理を行い、各種表彰の根拠資料として利用します。

さらに、点訳者及び音訳者の技術向上と交流を目的として、新年会、連絡会、校正者会議等を実施しています。

(12) 視覚障害者訓練事業

障害者ケアマネジメントの手法による訓練等を行っています。

① 訓練

・コミュニケーション訓練

点字、ハンドライティング及び音声読み上げソフトを利用したパソコン操作

・歩行訓練

手引き、屋内歩行及び白杖による歩行

・日常生活訓練

調理、裁縫・編物、日常身辺処理

② 相談

視覚障害に関する各種相談（訓練、各種用具・機器等の操作、進路等）に応じます。

③ 実施方法

訓練は、訪問又は当館への通所のいずれかの方法で行います。

相談は、電話の場合は随時受け付け、来館の場合は予約が必要です。

なお、来館及び電話受付は、火曜から日曜日の午前 9 時から午後 5 時までです。

(13) 便利グッズの展示と販売

点字器や白杖はもちろん、調理器具、拡大読書器など、日常生活に便利な商品を展示してあり、直接手にとって、試してからご購入いただけます。白杖など各種修理も承ります。また、日常生活用具の給付制度を利用したい方には制度及び申請方法の説明、及び見積書の受付も行っています。生活に便利な情報も積極的に発信しています。

(14) 関係機関・団体との連絡調整

① 市内関係機関

- ・市立図書館

② 外部加盟組織

- ・全国視覚障害者情報提供施設協会
- ・日本盲人社会福祉施設協議会自立支援施設部会
- ・関東地区点字図書館協議会
- ・神奈川県視覚障害者情報提供施設連絡協議会
- ・神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会
- ・川崎市社会福祉協議会
- ・川崎区社会福祉協議会

(15) 篤志家報告

ボランティア団体などから寄贈された録音図書・点字図書の内容を報告書（寄贈年月日、寄贈された図書等、寄贈した団体名等及びその住所を記載）としてまとめ、川崎市健康福祉局長へ提出しています。

(16) 市内のボランティア団体との連絡調整

① 川崎市視覚障害者ボランティア連絡会（オブリガード）

障害者と共に生き、共に歩む地域活動を理念としています。川崎市内の視覚障害者にかかわっている録音、点訳、拡大写本、パソコンサポートなどのボランティアグループが連携し、障害者のニーズに迅速かつ的確に応えています。

なお、参加グループは、次のとおりです。

活動分野	グループ名
録音グループ	水車の会 さんざし ひいらぎ かざぐるま
点訳グループ	芽の字会 スターシックス ぶれいる アンダンテ 里の芽会 木の芽会
拡大写本グループ	ルーペの会 とんぼ ぺんパルの会
デイジー図書グループ	DAISY 川崎
パソコンサポートグループ	川崎パソコンユーザー会 あさおPC クラブ 川崎パソコンクラブ (KPC)

② 川崎市視覚障害者情報文化センターを活動拠点としているグループの紹介

・水車の会

「情報ポケット水車」及び「音のしおり」を月刊で発行しており、センターで発送作業を行っています。また、録音図書の寄贈等もあります。

・デイジー川崎

デイジー図書の製作委託契約を締結しています。

・川崎パソコンユーザー会

ユーザー（視覚障害をお持ちの方）とサポーター（パソコンサポートボランティア）が情報バリアフリーをめざし、パソコン操作の勉強をしています。

(17) その他広報・啓発等の事業

読書会（年2回）、各種コンサートの開催、音声解説付きDVD映画体験上映会の毎月開催、視覚障害者と支援者のための防災イベントの開催、アイ eye センターまつりの開催、学校・施設・団体で視覚障害体験などを行い、センター事業の理解と普及、視覚障害の啓蒙に努めています。また、本事業概要を毎年度作成し、7月頃を目処に関係部署・団体へ送付しています。

### 3 平成 28 年度事業のあらまし

#### <概要>

平成 28 年度は地域に根ざし、より幅広く情報を発信するとともに、各方面との連携の強化に努めてきました。利用者の皆様から信頼を得られるようになり、またそれに応えるべく職員相互の情報交換・連携を密にした 1 年でした。4 月のサピエ図書館の機器更新に伴う 5 週間に及ぶ全国規模のサービス停止に際しては、貸出しに備えた図書確保と、事前に利用者の方々に十分な告知を行った事により、大きなトラブルもなく貸出し業務を行うことができました。利用者の方々からご理解とご協力をいただいたのも、日ごろ培ってきた信頼関係によると推察しています。

貸出集計はサピエ停止に伴い 4 月は新規タイトルを貸し出すことが難しかったため、昨年実績と比較すると録音図書は 11,956 タイトルから 10,543 タイトルとわずかに減少しましたが、点字図書は 250 タイトルから 287 タイトルとわずかに増加しています。また、ダウンロードサービスは 910 タイトルから 1056 タイトルと増加が見られます。

図書製作では、点字図書・録音図書とも昨年を上回る実績の製作を行うことができ、シネマ・デイジーは当センターで昨年度養成した DVD 映画の音声ガイド製作ボランティアにより 3 タイトルが製作されました。

利用者登録者は 424 名となり、川崎市盲人図書館開設以来の最多の登録者数となりました。これには用具の購入や日常生活訓練によってセンターとつながった方々が図書利用にいたる連携の効果が出てきたことが大きく寄与しています。

訓練事業についても平成 27 年度からの訓練継続者を含め、歩行、生活、コミュニケーションなどの各種訓練を行ってきました。4 月から 5 月にかけて、新しい職場、学校への移動にともなう歩行訓練希望がある一方、夏の猛暑と長雨のため 7 月以降の歩行訓練回数が大きく減少する傾向にあります。パソコン訓練では Windows10 への更新に伴う相談も多くなりました。訪問指導や来所指導といった短期間での訓練指導が、平成 27 年の倍以上に伸びており、短期的な訓練指導へのニーズが高くなっています。

視覚障害者のメンタル面にも焦点をあて、眼科に勤務している心理カウンセラーが、視覚に不安を持つ人たちに心のケアを図ることを目的に「こころと目の相談会」を、新たに企画し 2 回開催しました。

7 月には視覚障害者に関する業務に従事している川崎市職員の方の資質向上を図るため、視覚障害者訓練事業説明会を開催しました。昨年度の訓練実績についてご説明したほか、視覚障害者が利用する各種用具類を紹介し、実際に操作体験もしていただきました。コミュニケーション訓練・機器の紹介、歩行訓練、日常生活訓練、日常生活用具の紹介・機器類の操作体験など訓練担当者が中心に説明を行いました。用具の購入をきっかけに図書利用、相談、訓練へとつながるケースも増えてきており、各事業相互の有機的なつながりが活かされているようになってきています。

春と冬のコンサート、9 月の日本キルギス友好チャリティーコンサートなど音楽イベントは大変好評で、各回 100 名以上のお客様が集まり、終演後の満足度も高いものでした。

神奈川県ライトセンターや神奈川県内の視覚特別支援学校2校とは、これまで同様に見学会、用具展示会、音声解説付きDVD映画上映会などを開催しました。

毎月実施している音声解説付きDVD映画体験上映会は、ふれあいプラザかわさき1階の老人健康福祉センターの方の利用も含め、7月の52名を最高に、毎月30名を超す参加者数となっています。今年度より当センター制作の作品を上映したほか、「駅 STATION」上映の際には音声解説の音源がトラブルにより利用できなくなり、その場で音声ガイドを付けるライブ形式に切り替え、大変好評でした。また、県立平塚盲学校の寄宿舎、市内デイサービス「かみふうせん」での体験上映会を開催し、日頃映画に触れる機会のない方々にも音声ガイドで映画を鑑賞する体験をしていただき、好評を得ました。

6月に静岡で行われた視覚障害リハビリテーション研究発表大会に職員4名を派遣し研究発表を行ったほか、平成29年6月の当センター主管による川崎大会に向け、準備のための情報収集を行ってきました。

「れきおんクラブ」は、歴史的音源を聞く会として隔月で開催しています。国立国会図書館は戦前のSP版レコードの歴史的音源をデジタル化しインターネット配信しています。「れきおんクラブ」では、毎回テーマを決めてこの音源を聴いています。11月は「きらめく少女歌劇 宝塚とSSK」と題し、宝塚少女歌劇団と松竹少女歌劇団の代表作やスターの歌声を中心に、プログラムを組みました。1月は「蘇える『第1回紅白歌合戦』」と題して、昭和26年1月に放送された第1回NHK紅白歌合戦と、その母体となった昭和20年12月の「紅白音楽試合」のプログラムを再現してみました。

メールマガジンは発行1年を迎え、登録件数は3月末で163名になりました。市内利用者のみならず、ボランティアやセンターのイベントに係わっていただいた方々にもお読みいただき、情報の共有を進めてきました。

(追記) 4月14日に発生した熊本地震の被災地に、当センターより職員2名を被災者支援のために派遣しました。数日にわたって視覚障害者の安否確認、避難所の訪問を行いました。

## (1) 図書館サービスの状況

### <図書貸し出しについて>

平成28年4月から平成29年3月の貸出し状況は次の通りです。登録利用者数は424名、登録利用団体は264施設。貸出し数は、個人・団体合わせて、点字図書287タイトル、CD図書は10,543タイトルでした。点字雑誌は年間324タイトル、録音雑誌はテープ雑誌の貸出しが年間60タイトル、CD雑誌を年間4,799タイトル貸し出しました。この中で他の図書館からの相互貸借による貸し出しは、点字図書40タイトル、CD図書6,973タイトルを提供しました。また、利用者ニーズを尊重した図書選定を行い、前年度からの製作分も含めて点字図書は76(自館46・寄贈30)タイトル、プライベートサービス21タイトル製作しました。

録音図書も前年度からの製作分も含めて97タイトル、プライベートサービス9タイトル、テキストデージー図書6タイトルを製作しました。あたらしくシネマ・デージーの製作を開始し、今年度は18タイトルを製作することがで

きました。

新しく始まったダウンロードサービスが好調で 1056 タイトルのダウンロードを行いました。貸出数は、録音図書の 10,543 と合わせると 11,599 タイトルとなります。

12月1日から1月末までの間、個人の所有するSDカード・CFカードにデイジー図書をセットでダウンロードする「川崎おすすめセット」のサービスを行いました。

視覚障害者の場合、新聞、雑誌等の活字情報を入手しにくいために、話題の本を知らない方が多くいます。とかく自分の好みのジャンル、知っている作家を中心に読む傾向にあります。利用者に様々な本との出会いを提供したいと考え、このサービスを行いました。サピエにコンテンツのあるデイジー図書のうち、3つのジャンルについておすすめを15タイトルずつ選び、SDカード・CFカードにコピーしてお渡しするサービスです。

■サービスの対象者は、ご自身でダウンロードができない個人利用者。

■セットの種類

- (1) おすすめセット1 時代小説 15
- (2) おすすめセット2 推理小説 15
- (3) おすすめセット3 シネマ・デイジー15

原則は1枚のカードに1セットをコピーしてお渡します。

## ① 蔵書

### ・分類別蔵書数

分類	媒体		点字図書		デイジー図書	
	タイトル	冊数	タイトル	枚数	タイトル	枚数
0 総記	55	240	108	108		
1 哲学	97	330	212	212		
2 歴史	121	580	448	448		
3 社会科学	381	1285	530	531		
4 自然科学	185	743	483	483		
5 技術	117	466	148	148		
6 産業	69	246	107	107		
7 芸術	123	444	329	330		
8 言語	28	114	41	41		
9 文学	1562	5625	2562	2590		
その他	2	8	15	15		
合計	2740	10081	4983	5013		

・受入種別蔵書数

受入 媒体	点字図書		デイジー図書		テキストデイジー	
	タイトル	冊数	タイトル	枚数	タイトル	枚数
自館製作	2404	9256	1607	1607	8	8
購入	1	1	7	7	0	0
寄贈	48	96	2745	2772	0	0
厚労省委託	287	728	548	551	0	0
他館複製	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	76	76	0	0
合計	2740	10081	4983	5013	8	8

② 貸出しを行っている雑誌

・点字雑誌 7誌

雑誌名	発行間隔
コメディカルの友	〔月刊〕
経絡治療	〔月刊〕
東洋療法	〔月刊〕
鍼灸柔整新聞	〔月刊〕
鍼灸の世界	〔月刊〕
点字ジャーナル	〔月刊〕
点字毎日	〔週刊〕

・CD雑誌 57誌

雑誌名	発行間隔
NHK きょうの健康	〔月刊〕
NHK 趣味の園芸	〔月刊〕
NHK 俳句	〔月刊〕
PHP	〔月刊〕
朝日新聞天声人語	〔月刊〕
アベ・マリア	〔月刊〕
医道の日本	〔月刊〕
栄養と料理	〔月刊〕
おしゃれなひととき	〔季刊〕
オール読物	〔月刊〕
オレンジページ	〔月2回〕
近刊録音図書情報	〔月刊〕
暮らしの手帖	〔隔月刊〕

雑誌名	発行間隔
声の広報「厚生」	〔隔月刊〕
声の食生活情報	〔月刊〕
声のナショナルジオグラフィック 日本版	〔月刊〕
サンデー毎日	〔週刊〕
社説5誌	〔旬刊〕
週刊朝日	〔週刊〕
週刊現代	〔週刊〕
週刊新潮	〔週刊〕
週刊文春	〔週刊〕
週刊ポスト	〔月刊〕
小説現代	〔月刊〕
小説新潮	〔月刊〕
小説宝石	〔月刊〕
小説すばる	〔月刊〕
女性自身	〔月2回〕
ステラ	〔週刊〕
世界	〔月刊〕
選択	〔月刊〕
壮快	〔月刊〕
総合リハビリテーション	〔月刊〕
鉄道ピクトリアル	〔月刊〕
点字毎日	〔隔週〕
東京くらしねっと	〔隔月刊〕
東洋経済	〔月刊〕
日経サイエンス	〔月刊〕
日経パソコン	〔月刊〕
日経ヘルス	〔月刊〕
日経マネー	〔月刊〕
にっぺんデイジーマガジン	〔月刊〕
ニューズウィーク	〔週刊〕
ニュートン	〔月刊〕
百万人の福音	〔月刊〕
婦人公論	〔月2回〕
文学界	〔月刊〕
文藝	〔季刊〕
文芸春秋	〔月刊〕
ホームライフ	〔月刊〕
みんぱく	〔月刊〕

雑誌名	発行間隔
山と溪谷	〔月刊〕
やまびこ通信	〔月刊〕
ラジオ深夜便	〔月刊〕
歴史読本	〔月刊〕
旅行読売	〔月刊〕
ロバさんの万華鏡	〔季刊〕

・テープ雑誌 5誌

雑誌名	発行間隔
暮らしの手帖	〔月刊〕
婦人公論	〔月刊〕
糖尿病ライフさかえ	〔月刊〕
ニュートン	〔月刊〕
ラジオ深夜便	〔月刊〕

(2) 利用者等の状況

① 利用者及び市内の視覚障害者の状況

(ア) 利用者数

28年度の新規登録	28年度の登録抹消	登録者
42	0	424

(イ) 障害等級別利用者数

障害等級	1級	2級	3級	4級	5級	6級	未所持
人数	209	148	14	5	18	1	29※

※障害者手帳は持っていませんが、視覚による表現の認識に障害のある方です。

(ウ) 年齢別利用者数

年齢	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	不明
人数	5	9	17	42	43	103	201	4

② 資料の貸出状況

(ア) 分類別資料貸出 (個人)

分類	点字図書		テープ図書		デージー図書	
	タイトル	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数
0 総記	1	3	1	7	42	42
1 哲学	8	20	1	5	176	178
2 歴史	1	4	1	5	203	203
3 社会科学	5	12	2	13	173	173
4 自然科学	4	13	5	21	142	142
5 技術	1	2	2	8	84	84
6 産業	0	0	4	20	36	36
7 芸術	7	12	0	0	409	410
8 言語	3	9	0	0	71	71
9 文学	65	199	6	32	6711	6713
その他	0	0	0	0	12	12
小計	95	274	22	111	8059	8064
雑誌	324	324	60	248	4698	4701
合計	419	598	82	359	12757	12765

(イ) 分類別資料貸出 (団体)

分類	点字図書		テープ図書		デージー図書	
	タイトル	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数
0 総記	2	10	0	0	20	20
1 哲学	4	15	0	0	54	54
2 歴史	5	18	0	0	158	158
3 社会科学	16	53	0	0	157	157
4 自然科学	8	31	0	0	56	56

分類	点字図書		テープ図書		デイジー図書	
	タイトル	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数
5 技術	11	37	0	0	37	37
6 産業	4	15	0	0	19	19
7 芸術	13	40	0	0	208	212
8 言語	2	6	0	0	7	7
9 文学	125	480	0	0	1768	1768
その他	2	2	0	0	0	0
小計	192	707	0	0	2484	2488
雑誌	0	0	0	0	101	101
合計	192	707	0	0	2585	2589

(ウ) 資料のダウンロード状況

月別資料

(タイトル)

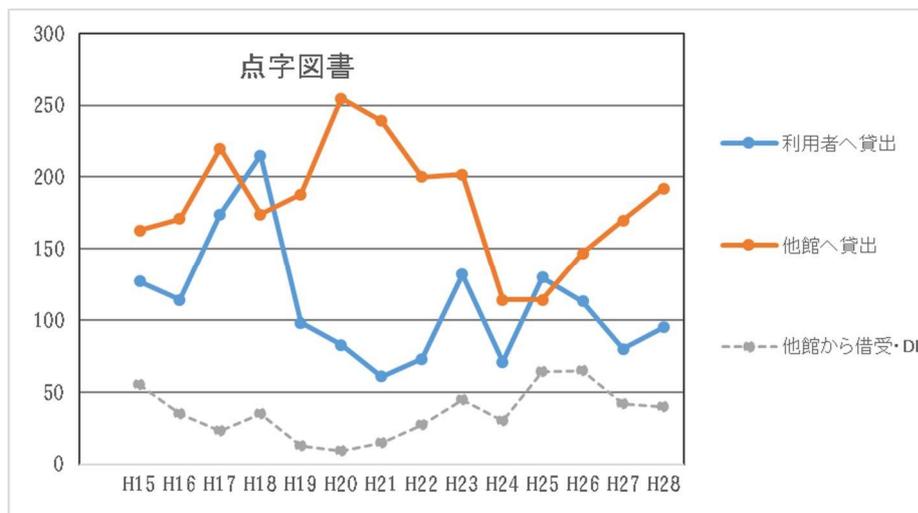
月	点字図書	デイジー図書
4月	0	55
5月	0	50
6月	0	84
7月	0	55
8月	0	80
9月	0	98
10月	0	87
11月	0	84
12月	0	151
1月	0	97
2月	0	77
3月	0	138
合計	0	1056

(エ) 利用状況の推移

点字図書

(タイトル)

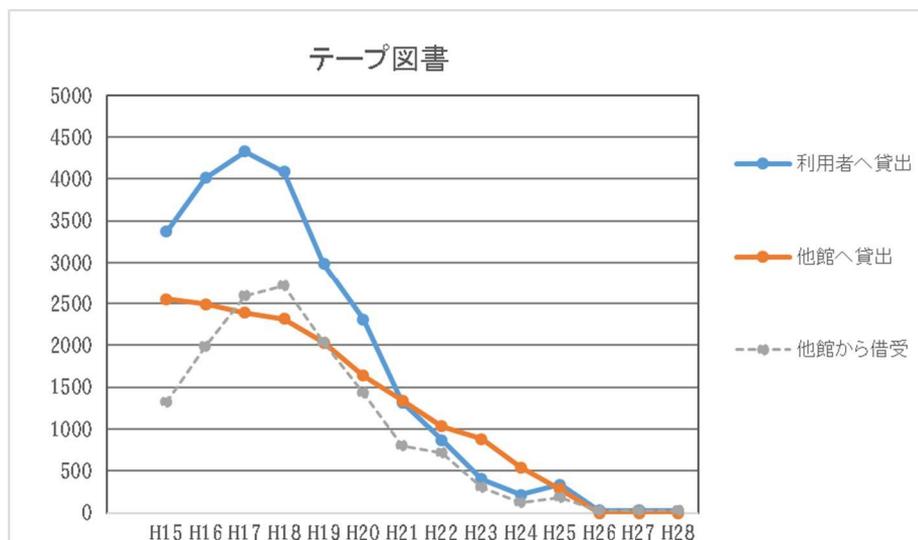
年度	利用者へ貸出	他館へ貸出	他館から借受・DL
H15	127	163	55
H16	114	171	35
H17	174	220	23
H18	215	174	35
H19	98	188	13
H20	83	255	9
H21	61	239	15
H22	73	200	27
H23	132	202	45
H24	71	114	30
H25	130	114	64
H26	113	147	65
H27	80	170	42
H28	95	192	40



テープ図書

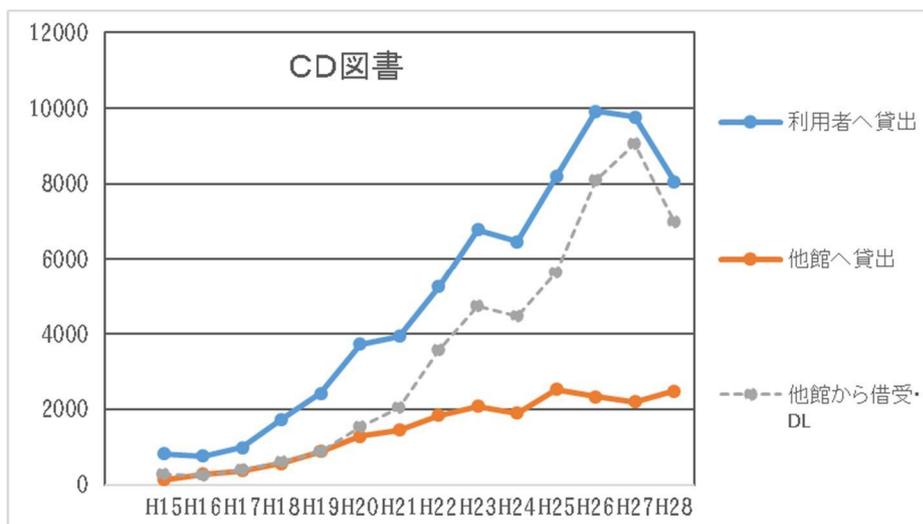
(タイトル)

年度	利用者へ貸出	他館へ貸出	他館から借受
H15	3373	2553	1319
H16	4017	2495	1986
H17	4329	2390	2593
H18	4088	2319	2709
H19	2987	2034	2032
H20	2309	1637	1435
H21	1319	1340	806
H22	873	1032	721
H23	402	884	299
H24	216	541	125
H25	338	282	185
H26	31	0	31
H27	27	0	27
H28	22	0	22



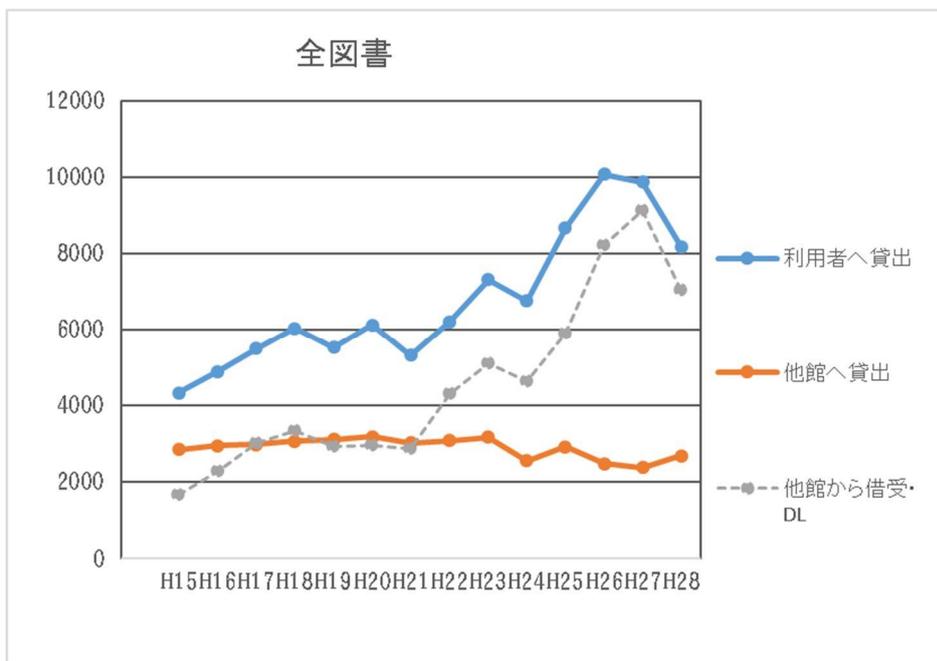
デジター図書 (タイトル)

年度	利用者へ貸出	他館へ貸出	他館から借受・DL
H15	818	123	269
H16	756	283	252
H17	984	362	397
H18	1731	564	601
H19	2426	875	868
H20	3724	1286	1520
H21	3929	1444	2037
H22	5252	1839	3567
H23	6779	2073	4752
H24	6464	1893	4463
H25	8196	2522	5649
H26	9921	2328	8103
H27	9761	2195	9061
H28	8059	2484	6983



全図書 (タイトル)

年度	利用者へ貸出	他館へ貸出	他館から借受・DL
H15	4318	2839	1643
H16	4887	2949	2273
H17	5487	2972	3013
H18	6034	3057	3345
H19	5511	3097	2913
H20	6116	3178	2964
H21	5309	3023	2858
H22	6198	3071	4315
H23	7313	3159	5096
H24	6751	2548	4618
H25	8664	2918	5898
H26	10065	2475	8199
H27	9868	2365	9130
H28	8176	2676	7045



(3) プライベートサービスの実施状況

サービス内容	件数
点訳	21件
点字プリンティングサービス	0件
墨字訳	0件
代筆	0件
音訳	9件
複製サービス	0件
対面朗読	2件
読書用機材貸出し	14台

(4) 「ぶっくがいど」の発行状況（個人、団体）

発行数	墨字版	点字版	デイジー版
6回（偶数月）	188名	91名	216名

※H29年3月末時点

(5) 「アイeyeセンターだより」の発行状況（個人、団体）

発行数	墨字版	点字版
6回（奇数月）	153名	51名

※H29年3月末時点

(6) メールマガジンの発行状況（個人、団体）

発行数	登録者数
24回（月2回）	163名

※H29年3月末時点

(7) 図書館資料の受入状況

平成28年4月1日から平成29年3月31日までの受入状況

・分類別蔵書数

分類	点字図書		デイジー図書		テキストデイジー	
	タイトル	冊数	タイトル	枚数	タイトル	枚数
0 総記	5	14	6	6	0	0
1 哲学	3	8	0	0	1	1
2 歴史	6	18	18	18	0	0
3 社会科学	34	99	20	20	0	0
4 自然科学	7	26	17	17	0	0

5 技術	5	14	9	9	0	0
6 産業	3	7	2	2	0	0
7 芸術	7	25	23	23	0	0
8 言語	1	2	3	3	0	0
9 文学	65	202	72	72	5	5
その他	0	0	11	11	0	0
合計	136	415	181	181	6	6

・受入種別蔵書数

受入	点字図書		デイジー図書		テキストデイジー	
	タイトル	冊数	タイトル	枚数	タイトル	枚数
自館製作	73	255	79	79	6	6
購入	0	0	0	0	0	0
寄贈	1	3	22	22	0	0
厚労省委託	62	157	80	80	0	0
合計	136	415	181	181	6	6

(8) 点訳者の新年会・連絡会及び点訳相談会・校正者会議の開催

・点訳者・校正者新年会

点訳者の交流を目的として、新年会を開催しました。

日時：平成28年1月18日（水） 午後12時～午後3時 36名出席

・点訳関係者連絡会議

「第1回点訳関係者連絡会」

5月18日に点訳関係者が一堂に会する点訳関係者連絡会議を開催し点訳者44名の参加がありました。

日時：平成28年5月18日（水曜日）午後1時半から

センターからのお知らせ、新メンバーの紹介、「英語点字表記の変更について」の研修

「第2回点訳関係者連絡会」

日時：平成28年12月7日（水） 午後13時半から連絡会

(1) センターからのお知らせ

・英語新表記補足・点字に関連した最近の動き・その他意見交換

(2) 講演「情報処理点字の基礎と情報・理数専門点訳の取り組み」

・講師 長岡英司氏（日本点字図書館副館長、もと筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター教授）

・長岡氏は平成 27 年 3 月まで筑波技術大学において、情報・理数専門点訳に取り組んでこられました。今回は長岡氏に、情報処理点字の基礎やこれまでの取り組み、点字に対する思いなど講演いただきました。

・点訳相談会・校正者会議

校正者を講師とし、点訳で生じた疑問点の相談会を 4 回実施しました。

「第 1 回点訳者・校正者相談会」

日時：平成 28 年 7 月 27 日（水） 午後 1 時半から

「第 2 回点訳者・校正者相談会」

日時：平成 28 年 10 月 19 日（水） 午後 1 時半から

「第 3 回点訳者・校正者相談会」

日時：平成 29 年 3 月 9 日（木） 午後 1 時半から

「第 1 回校正者会議」

日時：平成 28 年 4 月 20 日（水） 午後 1 時半から

事業計画の報告、英語点字表記の変更に伴う『点訳のてびき第 3 版』の変更について、初歩から学ぶ英語点訳四訂版補足説明を行なう。

(9) 音訳者の連絡会、校正者会議等の開催

・音訳関係者連絡会

5 月 19 日に音訳関係者が一堂に会する音訳者連絡会を開催し音訳者 22 名の参加がありました。センターからのお知らせ、今年度年間スケジュール、音訳者研修について、委託についての説明を行いました。特別講演会としてデイジー川崎の斉藤氏に「～デイジー編集の現場から～ 録音図書ができるまで」と題して、製作の流れや録音時の留意点などをお話しいただきました。最後にグループ別の相談会、交流会を行ないました。

11 月 16 日(水)に第 2 回音訳関係者連絡会を開催し、音訳者 24 名の参加がありました。センター職員による「音声読み上げソフトの紹介、テキストデイジー、マルチメディアデイジーの紹介」、続いてグループ別相談会、プレクストーク(録音図書再生機)の体験など、音訳者同士で自主的にグループを作って、いろいろ試みていただきました。

・校正者会議

年間を通じて計 4 回の校正者会議を開き、音訳関係者連絡会、音訳者養成講座、スキルアップ研修会等の企画を含めて、様々な取り組み課題について検討しました。

・毎週木曜日に音訳校正者にセンターに来ていただき、録音図書製作の問合せなどに対応いただきました。

(10) 音訳者の養成講座の実施

読み方の基本練習、録音図書製作ソフト、処理の方法、読みの確認等 16 回の講座を 9 月 29 日(木)から開催しました。講習会には 6 名の参加があり

ました。4名の方に修了書をお渡ししました。

(11) シネマ・デイジーの製作

映画のサウンドに音声ガイドをつけたデイジー図書「シネマ・デイジー」は大変多くの利用者に楽しんでいただける重要なコンテンツですが、その制作は難しくコンテンツの数が不足している状況です。川崎市視覚障害者情報文化センターとしてシネマ・デイジーの充実と普及を目指し、昨年度より当センターで製作を始めました。本年度はセンターで実施した音声ガイド制作講座を終了した十名による自館製作体制を作り、3タイトルの映画に音声ガイドをつけることができました。つくったガイドは度重なる修正を加えたのち、視覚障害者モニターのチェックを受け、聞きやすくて確かなガイドとなるよう努力されています。また、昨年度に引き続き、音声ガイドに実績のあるボランティア団体「シティ・ライツ」に製作を依頼し15タイトルを新規に作成しました。

(12) 表彰

12月4日に開催された、第36回「川崎市民のつどい」の中で、福祉功労者の方への市長表彰が行われました。その市長表彰に、図書制作協力者から点訳奉仕者と、音訳奉仕者が、更正援護功労者として選ばれました。長年にわたり、当センターの運営に多大なる御協力と他の音訳者や点訳者の模範となる活動を行った方々です。

「川崎市民のつどい」における市長表彰者  
(身体障害福祉に係る更生援護功労者)

点訳奉仕者 山本正子様  
音訳奉仕者 前田信子様  
水車の会 大川京子様

(13) 読書会の開催

読書会は毎年春と秋の年2回開催しています。今年は春の読書会を6月に、秋の読書会を12月に開催しました。

春の読書会を次の内容で開催しました。

日時： 平成28年6月3日(金) 13:30~16:00  
会場： エポックなかはら 中原区上小田中6-22-5  
作品： 「本日は大安なり」辻村 深月著  
参加者： 9名

秋の読書会を次の内容で開催しました。

日時： 平成28年12月2日(金) 13:30~16:00  
会場： エポックなかはら 中原区上小田中6-22-5  
作品： 「とんび」 重松清著  
参加者： 6名

#### (14) 視覚障害者訓練事業の実施状況

川崎市視覚障害者情報文化センターとして3年目を迎え、利用者の方以外にも、介護事業所や地域包括支援センター、障害者相談支援センターなど、地域の相談支援機関にも認知されつつあるように思われます。

新規訓練の申し込みはコンスタントにあり、随時必要な訓練を提供しています。利用者の中には、歩行訓練、パソコン訓練等の具体的な内容を指定される方もいらっしゃいますが、“急に視機能が低下し今後どのように生活をしていけばよいかアドバイスがほしい”“現在仕事を休職しているが職場に復帰するためにはどうしたらよいか？”“視覚障害になって引きこもっている状態で、今後の生活が見通せない”等の、相談から始まることも多く、内容は多岐に渡っています。

デイジー図書再生機、時計、体重計、白杖などの福祉用具についての相談もあり、購入者の状況に合わせて商品の選定をするようにしています。また、取り扱い方法の説明、白杖の使用法の解説など、単に物品を販売するに留まらず、実際に使用できるように指導しています。来館者からはこのような対応に対し、評価もいただくようになりました。

利用者相互の交流を深めることにも取り組んでおり、1～2ヶ月毎に通称“ぶらぶら会”を実施し、普段の生活の中で不自由に感じていることなどを当事者同士で話し合ったり、カラオケやストレッチを行うなど、簡単なレクリエーションの場を提供しています。

10月に実施した屋外交渉会では、20名ほどの利用者と神奈川県厚木市にあるマス釣り場に行き、マス釣りやバーベキューを楽しみ、交流を深めました。

#### ① 訓練申請と利用契約の状況

##### (ア) 訓練の申請状況

平成27年度からの申請繰越1件、平成28年度申請分35件、合わせて36件の訓練申請がありました。

区分	平成28年度実績	前年度実績
申請受付件数	35	26
前年度からの申請繰越し件数	1	2
申請件数計	36	28

(イ) 訓練の契約状況

申請のあった 36 件に対して訓練利用契約を締結し、訓練を実施しました。

区分	平成 28 年度実績	前年度実績
新規契約件数	36	28
前年度からの 契約継続件数	19	21
契約件数計	55	49

② 訓練生の状況

(ア) 年齢別の状況

平成 28 年度に訓練を実施した 55 名の年齢別の統計です。  
主に中途視覚障害者を対象としているため、40 歳以上の方がほとんどです。

区分	男	女	計
18 歳未満	2	0	2
18 歳以上 40 歳未満	3	3	6
40 歳以上 65 歳未満	14	11	25
65 歳以上	11	11	22
計	30	25	55

(イ) 地区別の状況

区分	男	女	計
川崎福祉事務所	3	1	4
大師福祉事務所	3	2	5
田島福祉事務所	0	0	0
幸福社事務所	4	5	9
中原福祉事務所	5	4	9
高津福祉事務所	2	6	8

区分	男	女	計
宮前福祉事務所	4	1	5
多摩福祉事務所	4	3	7
麻生福祉事務所	2	2	4
その他（市外）	3	1	4
計	30	25	55

(ウ) 障害程度別の状況

大区分	小区分	男	女	計
1 級	0(a)	6	1	7
	明暗弁(b)	4	4	8
	手動弁(c)	2	3	5
	指数弁(d)	0	1	1
	0.01(e)	1	1	2
2 級		14	13	27
3 級		1	1	2
4 級		0	0	0
5 級		0	1	1
6 級		1	0	1
不所持		1	0	1
計		30	25	55

(a) 両眼が失明した者

(b) 暗室にて被検者の眼前で照明を点滅させ、明暗が弁別できる視力がある者

(c) 検者の手掌を被検者の眼前で上下左右に動かし、動きの方向を弁別できる者

(d) 検者の指の数を答えさせ、それを正答できる最長距離が 1m未満の者

(e) 両眼の視力の和が 0.01 以下の者

(エ) 障害原因別の状況

大区分	小区分	男	女	計
中途障害	外傷	1	0	1
	糖尿病	7	2	9
	原因不明	19	21	40
	その他(※)	1	1	2
先天障害		2	1	3
計		30	25	55

(※) 網膜芽細胞種、脳梗塞

(オ) 眼疾患別の状況

区分	男	女	計
眼球全体(a)	10	3	13
角膜疾患(b)	0	0	0
水晶体疾患(c)	1	5	6
ブドウ膜疾患(d)	0	1	1
網膜疾患(e)	16	18	34
視束・視路疾患(f)	5	0	5
硝子体疾患	0	0	0
強度近視	0	0	0

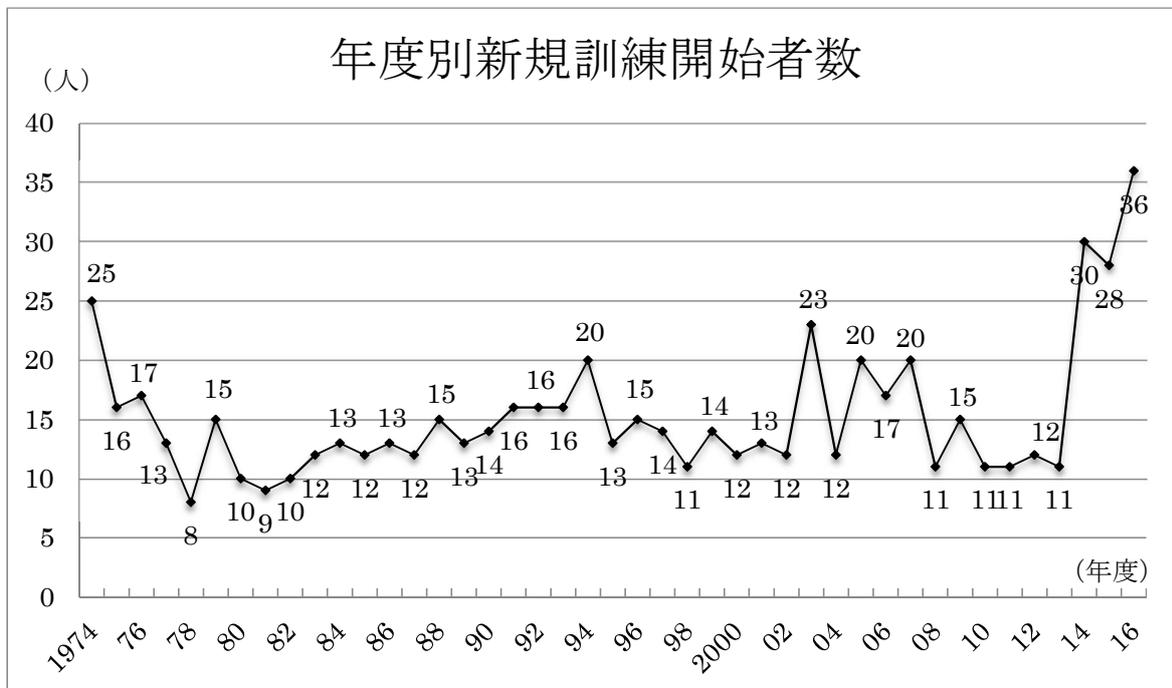
- (a) 緑内障、ステューブンスジョンソン症候群、眼球ろう、内因性眼内炎  
(b) 角膜白斑、角膜白濁  
(c) 白内障、両眼無水晶体  
(d) ブドウ膜炎  
(e) 網膜色素変性症、糖尿病網膜症、網膜剥離、虚血性網膜症、増殖性網膜炎、網膜芽細胞腫  
(f) 視神経萎縮、有髄神経線維、脳梗塞

眼疾患については、一名が複数の疾患を有している場合もすべて計上していません。

③ 訓練の年度別の状況

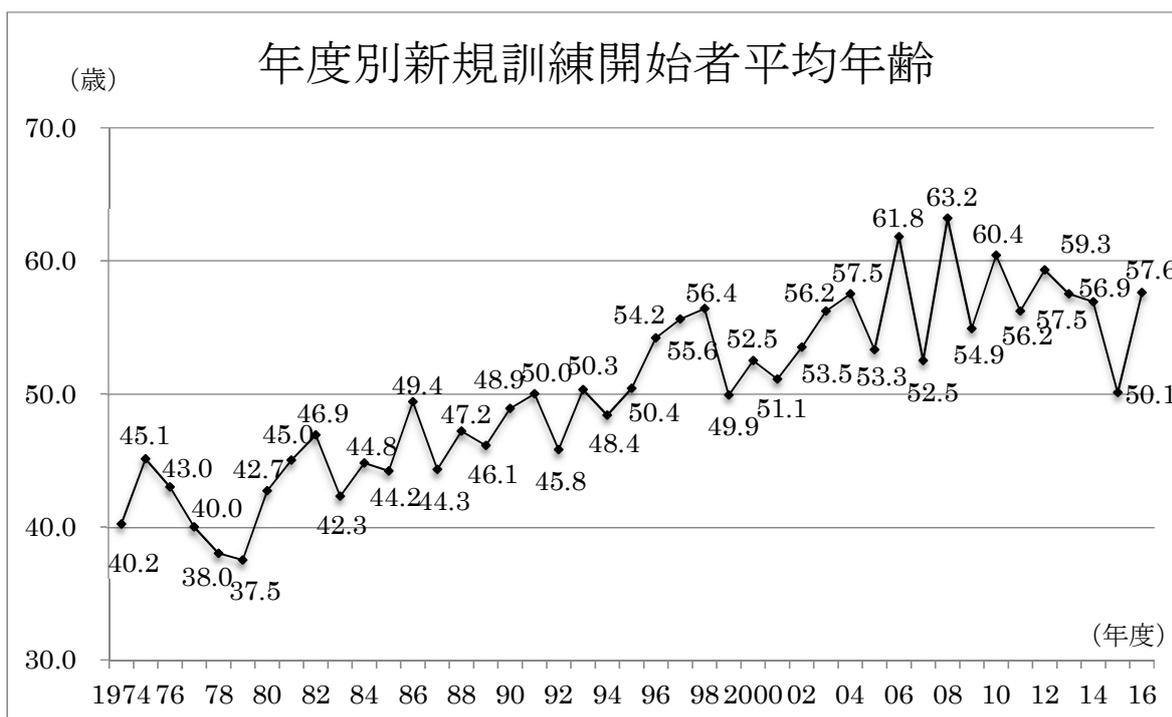
(ア) 新規訓練開始者の状況

新規訓練開始者の数は36件と、3年目もコンスタントに新規訓練者がいます。センターの訓練事業が地域の各機関に知られてきていることが伺えます。



(イ) 新規訓練開始者の平均年齢の状況

年度別での平均年齢をみると、ここ10年は50～60歳代で推移しています。昨年度は、就労を目指してパソコン訓練を開始したケースが多く、平均年齢はやや下がりましたが、全体的に緩やかな上昇傾向にあることが分かります。



#### ④ 訓練の内訳

平成 28 年度に実施した訓練の内訳です。合計 75 件、延べ 660 回の訓練を実施しました。

区 分		平成 28 年度				平成 27 年度	
		男	女	計	訓練回数	件数	訓練回数
コミュニケーション 訓練	点 字	6 件	3 件	9 件	92 回	8 件	122 回
	ハンドライティング	0 件	0 件	0 件	0 回	0 件	0 回
	パソコン	7 件	7 件	14 件	169 回	10 件	222 回
	小 計	13 件	10 件	23 件	261 回	18 件	344 回
歩行訓練	白 杖	24 件	17 件	41 件	381 回	28 件	437 回
	小 計	24 件	17 件	41 件	381 回	28 件	437 回
日常生活訓練	身辺処理	0 件	7 件	7 件	9 回	1 件	21 回
	裁縫・編物	0 件	0 件	0 件	0 回	0 件	0 回
	調 理	1 件	3 件	4 件	9 回	4 件	22 回
	小 計	1 件	10 件	11 件	18 回	5 件	43 回
計		38 件	37 件	75 件	660 回	51 件	824 回

#### ⑤ 各訓練の状況

##### (ア) コミュニケーション訓練

訓練実施件数は、点字 9 件、パソコン 14 件、ハンドライティング 0 件の計 23 件でした。

今年度は 60 歳以上の高齢の訓練生は少なく、学習手段の獲得を目的とした 10 代の訓練生が複数名いたことが特徴的でした。年代や障害の程度が多岐に渡るため、共通の訓練プログラムを土台としながらも、訓練生個々の状況やニーズに合わせた柔軟な対応をしないと効果は上がりません。障害を受け入れるためのきっかけづくりとして点字・パソコンを学び、それを足掛かりとして社会復帰を目指すケースも見られます。

点字は、中途視覚障害、しかも高齢となると、すらすらと本が読めるようになることは稀にしかなく、目標も日常生活の中で簡単なメモを取ったり、読み返したりといった、より生活に即したものになります。盲学校に入学するため、10 代の訓練生に対し、学習手段の獲得を目的とした訓練を行ったケースもありました。

パソコンは、メールを含めたウェブ利用を目標とする方が多いですが、

初めてパソコンを触る方などは、基本的な操作やキータッチから始めますので、訓練も長期間に及びます。

#### (イ) 歩行訓練

平成 28 年度に実施した歩行訓練は 41 件で、昨年より 23 件の増加がありました。以前、訓練を受けたが、視機能の低下が進み、再度訓練を受け直したいというケースや、白杖購入から訓練につながるケースが多くありました。

コミュニケーション訓練と同じく高齢の方が増えており、これは昔に比べ、高齢化社会が進んだことや医療の進歩などで、視覚障害になる年齢が上がっているためです。高齢の方が増えているため、単独歩行以外にも、家族などの介助者と安全に歩くための移動介助の方法についてもご希望があります。家族と一緒に歩行訓練を受けることにより、お互いに安心して外出できるようになったという声も多く聞かれます。

単独歩行では、センターまでの道順の他、買い物や通院などを目的とした自宅近辺や、通学や通勤の為の歩行訓練など、本人の希望や目的、体調、視覚の状況によって訓練内容は変わってきます。

#### (ウ) 日常生活訓練

平成 28 年度に実施した訓練は身辺処理が 7 件、調理が 4 件、裁縫は 0 件でした。

身辺処理訓練は掃除や片付け、簡単な裁縫などの日常生活一般の内容の訓練の他に、CD 図書再生機や携帯電話などの機械操作の訓練などカバーする分野が広いのが特徴です。機械の操作に自信のなかった方も CD 図書を楽しめるようになる、携帯電話でメールを打てるようになる、購入した家電を使いこなせるようになるなどの成果があがりました。

調理訓練は、購入した電子レンジの操作方法から開始し、煮物や焼き物、揚げ物などを電子レンジ調理で作成するといった訓練を行いました。

### ⑥ 相談業務等の状況

#### (ア) 相談の状況

本人、家族、区役所・介護事業所・就労支援センターなどといった地域の関係機関等、相談者は多岐に渡ります。特に、高齢の方に対する支援について、介護事業所からの問い合わせが増えていきます。

複数の区分にまたがる相談もあり、困っていることが生活全般にわたっていることが分かります。また、昨年に引き続き、用具の相談や購入から訓練につながるケースも多くあります。

以前訓練を受けていた方からの相談も多く、訓練が終了しても継続的な支援が必要であるといえます。

区分	平成 28 年度 件数	平成 27 年度 件数
訓練(a)	82	94
各種用具(b)	107	22
その他(c)	57	18
計	246	134

(a) 訓練に関する相談の種類と件数

1 件の相談に対して複数の訓練の相談を含む場合もあります。各種訓練相談の他に、どういう訓練があるのか、どの訓練を受けるべきかといった訓練全体に対する相談もありました。地域包括支援センターや介護事業所などからの問い合わせや、障害者相談支援センターなど、他の障害相談施設などからの問い合わせや訓練生の紹介も見られました。

(b) 各種用具に関する相談の種類と件数

デジタイズ図書再生機器や音声・拡大読書機の操作方法、パソコンの設定やトラブル対応等、電子機器に関する相談が多く見られました。単なる給付申請の為の見積書発行業務などは相談業務にカウントしていません。

(c) その他に関する相談の種類と件数

就職に関する相談から、iPad の購入、操作方法に関する相談が見られました。また、日々生じる目の不調など、目の悩みを相談する「かわさき目と心の健康相談室」を開催し、心理カウンセラーの方を招いて、相談を行いました。

(イ) 訪問指導・来所指導の状況

相談業務を、訪問、来所、電話で分けて集計しています。数回の訪問あるいは来所が必要になる場合がありますので、実際に行った指導回数を延べ回数として集計しています。昨年は 134 件でしたので、62%増、延べ件数 202 件が 270 件と 30%増になっています。具体的には、以前、訓練を受けた方が単発的に歩行指導やパソコン指導を求められるケースや、視覚障害者用ポータブルレコーダーの基本的な使い方、白杖・日常生活用具の紹介、生活状況の聞き取り等です。

区分	件数	延回数
訪問指導	126 件	166 回
来所指導	72 件	81 回
電話による相談	15 件	16 回
計	213 件	263 回

## ⑦ 訓練生懇親会

### (ア) 屋外交流会の実施状況

職員とマンツーマンで訓練している訓練生が、同じ障害を持つ訓練生と交流・親睦を深め、今後の社会参加を促すことを目的として実施しました。川崎市の福祉バスで出かけました。参加者は 35 名、バスの中で自己紹介や職員が企画したレクリエーションで和みながら移動しました。

到着後すぐにマス釣を始めて約 20 名の方が体験されました。普段体験することは出来ないことなので、参加者には心身ともにリラックスされ楽しんでいただけたと思えました。お昼にバーベキューを 4 グループに分かれて開始しました。ともに野外で食べることで、ふだん交流の無い方たち同士で忌憚なく過ごしていただきました。

a 日時 平成 28 年 10 月 14 日 (金) 8:00～16:00

b 場所 日向溪谷マス釣り場

c 参加人数 訓練生、付き添い及び職員、合計 35 名



屋外交流会参加者

### (イ) 懇親会(ぶらぶら会)の開催

センターで訓練を実施した利用者を対象とした懇親会を 7 回行いました。視覚障害についての不安や悩みを分かち合うことや、それぞれの買物の仕方などを話し合うことで、生活していく上での工夫を知ることなど、参加者にとって有意義な会になりました。

- a 日時 各回 13:00～15:00
- b 場所 センター多目的室等
- c 参加人数 5～6名

⑧ 川崎市視覚障害者情報文化センター訓練事業説明会

図書館事業・視覚障害者訓練事業の内容を知ってもらい、利用者への支援を広め深める為、行政関係者を対象とした事業報告会を開催しました。

- a 日時 平成28年7月8日（金）13:30～16:30
- b 場所 センター3階多目的室
- c 対象 福祉事務所、県内関係施設、当訓練担当職員
- d 参加人数 17名
- e 内容
  - ・平成27年度事業報告及び質疑・意見交換
  - ・日常生活用具・補装具類・各種訓練体験コーナーでの実演
  - ・デイジー図書再生機の操作体験

(15) 視覚障害者用具の展示と斡旋

視覚障害者の日常生活を便利にするグッズを平成28年度は、1,233点（平成27年度は1,314点）の斡旋を行いました。これらのグッズによって不便さを自ら解決できるようになり、視覚障害者の気持ちが積極的になって訓練や図書利用に進むきっかけになるケースが多くあります。センターでは、白杖を購入される方に簡単な操作方法をレクチャーしたり、デイジー図書再生機を購入される方に、操作方法や様々な図書が聞くことができることを説明したりするので、用具の紹介や斡旋を通して、当事者のQOL向上につながっていきます。視覚障害リハビリテーションの専門家である当センターの歩行訓練士がスタッフとして対応出来ることも大きな強みになっています。



(16) 広報活動

① 「かわさき春・冬のコンサート」の開催

当センターでは、文化活動の一環として春と冬の年2回、コンサートを開催しています。5月14日（土）には「かわさき春のコンサート」、12月10日（土）には「かわさき冬のコンサート」を行いました。春のコンサートでは「O t t a v a（オッターバ）」という八重洲室内アンサンブルの有志の方々による室内楽の演奏を、冬のコンサートは、「再発見 日本の音」と題して、全盲の箏演奏者・澤村祐司さん、小畔香子さん（箏）・加藤侑子さん（箏）・見澤太基さん（尺八）という、東京藝術大学出身の4名のフレッシュ

ユなメンバーによる、箏と尺八の演奏会を行いました。春は120名、冬は160名にもものぼり、多くの方に演奏に楽しんでもらいました。冬のコンサートでは、「音楽のまち・かわさき」推進協議会がコンサートの様子をユーチューブ上で動画配信しており、ご来場いただけなかった方にも、お楽しみいただけたと思います。



春のコンサート



冬のコンサート

## ② 日本とキルギス友好チャリティーコンサートの開催

9月18日にキヤル基金主催の、日本とキルギス友好チャリティーコンサートが開催されました。3月に日本テレビの『のだじまん THE ワールド!2016 春』で優勝されたキルギス共和国のグルム・カシムバエヴァさんによるコンサートで、センターは共催として会場の手配、広報と当日の運営のお手伝いをさせていただきました。当日は約170人もの方が来場され、川崎市の三浦淳副市長、キルギス大使もご来場いただきました。グルムさんの澄んだ声に魅了された、感動のコンサートでした。



## ③ アイ eye センターまつり

2月18日(土)に今回で3回目を迎えるセンターまつりを開催し、160名を超える方にご来場いただきました。このイベントは当センターの事業を一般健全者の方に知ってもらうと共に、当事者の方に気軽に来ってもらうための施設開放デーです。センター内を見学しながら事業を理解していただき、盲導犬体験、パソコン体験、iPad体験などができます。さらにご協力していただいているボランティアグループの連絡会(オブリガード)の紹介コーナーも設置しました。



## ④ 平成28年度アイ eye 出前センターの開催

センターから離れている地域に出向き、当センターの事業を知ってもらうための出前センターを毎年開催しています。今回は、川崎市北部の方々に当センターの事業を知ってもらうために、1月27(金)に麻生市民ギャラリーを使用して、図書館事業、訓練事業、日常生活に必要な便利グッズなど、センターの事業を1日ご紹介しました。一般の人も含めて40名ほどの方が立ち寄られました。



⑤ 音声解説付きDVD映画体験上映会

音声解説とは、登場人物の動きや背景等、映画の視覚情報を言葉で説明した音声ガイドです。当センターでは、音声解説付きDVD映画の体験上映会を毎月開催しています。

12回開催（毎月） 延べ来場者数 440名

⑥ 歴史的音源を聴く会「れきおんクラブ」

「れきおんクラブ」は、国立国会図書館が保存する戦前のSP盤レコードの歴史的音源を、インターネットを介して聴いています。11月は「きらめく少女歌劇 宝塚とSSK」と題し、宝塚少女歌劇団と松竹少女歌劇団の代表作やスターの歌声を中心に、プログラムを組みました。1月は「蘇える『第1回紅白歌合戦』」と題して、昭和26年1月に放送された第1回NHK紅白歌合戦と、その母体となった昭和20年12月の「紅白音楽試合」のプログラムを、「れきおん」で再現してみました。また、特別企画として、蓄音機によりSPレコードを聴く会も開催しました。

6回開催（隔月）延べ来場者数 81名

(17) 啓蒙・普及活動

センターの事業を紹介したパンフレット、生活用具のカタログ等を製作し、各福祉事務所、生活支援センター、関連機関・団体、市内眼科等を訪問し配布を行いました。そのほか、小中学校、福祉関係者への視覚障害・点字学習などの講師派遣、関連施設からの要望により用具などの福祉機器紹介、相談会などを開催しました。

① 講師派遣の状況

小・中学校、役所の職員、視覚障害者団体、社会福祉協議会などに職員を派遣し、講習を行ないました。

(ア) 宮前区役所障害者支援係の職員に対する点字講習

a 日時 平成28年4月13日

b 場所 宮前区役所

c 内容 区民に対する郵送物の封筒に点字で「宮前区役所障害者支援係」と

表示できるよう、実習を含めた4名に講習を行った。受講した全職員が目標を達成し、自分の氏名もかけるようになった。

(イ) 藤沢市総合市民図書館教養講座

- a 日時 平成28年4月17日
- b 場所 藤沢市点字図書館
- c 内容 当事者に対し用具の便利グッズ等の紹介を行った。

(ウ) タートルの会記念講演

- a 日時 平成28年6月4日
- b 場所 日本盲人職能開発センター
- c 内容 中途視覚障害者の継続就労問題を考える～訓練指導現場での体験をふまえ～をテーマに職員が講演する。

(エ) チャレボラ・アイマスク体験

- a 日時 平成28年7月31日
- b 場所 多摩川の里身障会館
- c 内容 小学生から大学生まで16名に対し、白杖の体験を担当した。

(オ) 川崎市視覚障害者福祉協会主催「同行援護」

- a 日時 平成28年8月28日
- b 場所 川崎市北部身体障害者福祉会館
- c 内容 同行援護を受ける側の注意として、川崎市視覚障害者福祉協会の会員に対し、誘導のされ方について基本をレクチャーした。

(カ) 平塚盲学校 音声ガイド付きDVD映画体験上映会

- a 日時 平成28年8月30日
- b 場所 平塚盲学校寄宿舎
- c 内容 盲学校の生徒さんたちに音声ガイド付きDVD映画の説明と上映を行った。

(キ) 宮前区犬蔵小学校での白杖体験

- a 日時 平成28年8月30日
- b 場所 宮前区犬蔵小学校
- c 内容 4年生2クラス約80人に対し、白杖の体験を担当した。

(ク) 多摩区社協「視覚障害について、対応、介助、白杖の使いかた」研修会

- a 日時 平成28年10月22日
- b 場所 多摩川の里身障会館
- c 内容 多摩区社協会員名に対し、白杖の体験を担当した。

- (ケ) 南大師中学校での白杖体験
- a 日時 平成 28 年 11 月 24 日
  - b 場所 南大師中学校
  - c 内容 全学年約 140 人に対し、白杖の体験を担当した。
- (コ) 川崎授産学園点字入門講座講師
- a 日時 平成 29 年 2 月 6 日
  - b 場所 川崎授産学園
  - c 内容 点字入門講座で、点字図書館の歴史を話す。
- (サ) デイサービスかみふうせん 音声ガイド付き DVD 映画体験上映会
- a 日時 平成 29 年 2 月 22 日
  - b 場所 デイサービスかみふうせん
  - c 内容 視覚障害のデイサービス利用者さんに対し音声ガイド付き DVD 映画の説明と上映を行った。
- (シ) 登戸地区社協 障害福祉部会研修講師
- a 日時 平成 29 年 3 月 22 日
  - b 場所 川崎市視覚障害者情報文化センター
  - c 内容 「視覚障害者への支援」、「白杖について」をテーマとして担当した。

② 関連施設・学校・団体などへの協力

ミニ展示会のような形で、視覚障害者用用具、デイジー図書などの紹介を依頼されるケースが多くなっています。弱視レンズ・拡大読書器・日常生活用具などを、生徒やその家族はもちろん、地域の人たちに、その場で手にとってもらうことができます。距離的な問題もあり、センターの用具コーナーに来られない人に対して多少でも支援できるようにと積極的に出展するようにしています。また、当日は様々な相談も受けるようにしています。

<職員の感想>

普段は、ホームページやカタログなどでしか見る機会がなく、手にとって使い勝手を試せない為、「購入しようと思うのだけど二の足を踏み、結局買わなくなってしまう」という声や「視覚障害になってからショッピングなどなかなか行けないので、こうやって直に触れられるのは嬉しい」という声を多数いただいた。視覚障害者にとって、実際に手にとって使い勝手を確認することが如何に重要かを実感しました。

- (ア) 平塚盲学校 弱視レンズ・拡大読書器・日常生活用具展示会
- a 日時 平成 28 年 5 月 25 日
  - b 場所 平塚盲学校
  - c 内容 平塚盲学校在籍の生徒、職員、地域の視覚障害者やその家族を対象にした「生活便利グッズ」展示会に出席。

- (イ) 神奈川県ライトセンター 「音楽祭」
  - a 日時 平成 28 年 6 月 11 日
  - b 場所 神奈川県ライトセンター
  - c 内容 福祉機器紹介、デージー図書紹介など行った。
  
- (ウ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会主催の「H28 年第一回かなエール」
  - a 日時 平成 28 年 7 月 3 日
  - b 場所 神奈川県障害者職業能力開発校
  - c 内容 福祉機器紹介、デージー図書紹介、就労相談、iPad 体験、盲養護老人ホーム紹介などを行った。
  
- ③ 関係機関との連携
 

センター事業に関わる外部団体との連携を維持するため、総会、大会、委員会、意見交換会などに、積極的に参加した。
  
- (ア) 川崎市自立支援協議会
  - a 日時 平成 28 年 4 月 12 日 5 月 10 日
  - b 場所 南部身体障害者会館
  - c 内容 各加盟施設の自己紹介。その後、ワーキングチームとして「児童期」「成人期」「高齢期」の 3 つに分かれて討論。後半は専門委員会として「広報委員会」「研修委員会」「当事者参加委員会」の 3 つに分かれて討論を行う。
  
- (イ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会定期総会
  - a 日時 平成 28 年 5 月 19 日
  - b 場所 神奈川県ライトセンター
  - c 内容 平成 27 年度事業報告並びに決算報告  
平成 28 年度事業計画及び予算案
  
- (ウ) 第 25 回視覚障害リハビリテーション研究発表大会
  - a 日時 平成 28 年 6 月 17 日、18 日、19 日
  - b 場所 グランシップ静岡
  - c 内容 川崎市情報文化センターの特徴や取り組みについてポスター報告
  
- (エ) 第 64 回全国盲人福祉施設大会
  - a 日時 平成 28 年 6 月 23 日、6 月 24 日
  - b 場所 ホテルヘリテイジ (埼玉県熊谷市)
  - c 内容 「部会長が語るこれからの施設」講演会「視覚障害者と介護保険」
  
- (オ) オブリガード(川崎市視覚障害者ボランティア連絡会)の総会
  - a 日時 平成 28 年 6 月 29 日
  - b 場所 川崎市視覚障害者情報文化センター

- c 内容 今年度センター事業計画と行事について説明する。

(カ) 川崎市視覚障害者福祉協会主催「相互激励大会」

- a 日時 平成 28 年 9 月 11 日
- b 場所 ふれあいプラザかわさき 2 階ホール・センター多目的室
- c 内容 開催運営に協力する。

(キ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会事務連絡会

- a 日時 平成 28 年 6 月 18 日、9 月 15 日
- b 場所 横浜市立盲特別支援学校、七沢更正ライトホーム、横浜訓盲学院
- c 内容 職員研修会の内容について等

(ク) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会 第 2 回日常生活訓練事例検討会

- a 日時 平成 28 年 11 月 8 日
- b 場所 神奈川県ライトセンター
- c 内容 メイク評価表の検討、余暇活動について

(ケ) 川崎区社協 福祉まつり

- a 日時 平成 28 年 11 月 26 日
- b 場所 川崎市教育文化会館
- c 内容 川崎区自立支援協議会ブースに参加。視覚障害に関する用具展示や体験を実施。

(コ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会 第 3 回日常生活訓練事例検討会

- a 日時 平成 29 年 2 月 23 日
- b 場所 神奈川県ライトセンター
- c 内容 メイク評価表の検討、余暇活動について、日常生活用具の紹介を行った。

(サ) 神奈川県視覚障害者情報連絡会議

- a 日時 平成 29 年 2 月 28 日
- b 場所 神奈川県ライトセンター
- c 内容 点訳者の確保、養成講座の開催状況と参加人数、選書方法と点字図書の利用状況などについて、情報交換を行った。

(シ) 歩行訓練士会意見交換会

- a 日時 平成 29 年 3 月 26 日
- b 場所 日本ライトハウス養成部
- c 内容 ホームの転落事故に関する情報共有と、歩行訓練に関する今後の展望などについて情報交換を行った。

(18) 職員の研修状況について

職員の資質向上、情報入手、関連機関との人的ネットワーク確立のため、担当研修会に職員を派遣した。

① 訓練関係

(ア) 視覚障害リハビリテーション協会研究発表大会

- a 日時 平成 28 月 6 月 17 日、18 日、19 日
- b 場所 グランシップ静岡
- c 内容 視覚リハの研究発表大会。講演、ポスター発表、機器展示等。

(イ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会の主催による「第 1 回歩行指導事例検討会」

- a 日時 平成 28 月 7 月 1 日
- b 場所 神奈川県ライトセンター
- c 内容 平塚盲学校で行われているプロ盲タイム（プロの盲学校教員としての力量を高める時間）の取り組みや、中学部生徒に対する歩行訓練事例についての発表・意見交換を行った。

(ウ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会の主催による「第 1 回コミュニケーション指導事例検討会」

- a 日時 平成 28 月 7 月 12 日
- b 場所 神奈川県ライトセンター
- c 内容 県内各生技研施設からの平成 27 年度事例報告会今年度活動内容の検討を行なった。

(エ) 第 38 回 視覚障がい乳幼児研究大会 横浜大会

- a 日時 平成 28 月 8 月 20 日、21 日
- b 場所 慶応義塾大学 日吉キャンパス
- c 内容 先天性視覚障害児に関する講演や情報交換を行う。主な参加者は当事者の親や盲学校の教諭。ライトセンターで行っている交流会についても報告があった。

(オ) 平成 28 年度神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会の主催による「第 2 回コミュニケーション指導事例検討会」

- a 日時 平成 28 年 10 月 4 日
- b 場所 神奈川県ライトセンター
- c 内容 高齢者に対する点字訓練への取り組み事例の発表

(カ) 平成 28 年度日本盲人社会福祉施設協議会自立支援施設部会職員研修会

- a 日時 平成 28 年 11 月 10 日、11 月 11 日
- b 場所 日本ライトハウス情報文化センター
- c 内容 自立支援のあり方、各施設の事業運営、施設間の連携について考える研修。

- (キ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会の主催による「第2回日常生活訓練事例検討会」
- a 日時 平成28年11月8日
  - b 場所 神奈川県ライトセンター
  - c 内容 メイク評価表の検討、余暇活動について
- (ク) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会の主催による職員研修
- a 日時 平成28年11月30日
  - b 場所 横浜市立盲特別支援学校
  - c 内容 障害者権利条約の下障害者差別解消法における合理的配慮とはどのようなものか、また、その社会モデルとは何か。(慶應義塾大学中野泰志氏、七沢自立支援ホーム 矢部健三氏)
- (ケ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会の主催による職員研修
- a 日時 平成29年1月24日
  - b 場所 神奈川県ライトセンター
  - c 内容
    1. 障害者差別解消法と図書館サービスについて
    2. 障害者サービス実施状況調査報告
    3. グループに分かれて調査報告をもとにした情報交換
- (コ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会盲乳幼児検討会の主催による職員研修
- a 日時 平成29年2月10日
  - b 場所 横浜訓盲学院
  - c 内容 横浜訓盲学院に在籍する盲乳幼児の一日のカリキュラム見学など
- (サ) 神奈川県ロービジョンネットワーク第36回研修会
- a 日時 平成29年2月25日
  - b 場所 神奈川県歯科大学横浜研修センター
  - c 内容 川崎市視覚障害者情報文化センターの事業紹介と第26回視覚リハ大会の案内など
- (シ) シンポジウム『視覚障害者の生活訓練（歩行訓練）のあり方を考える』
- a 日時 平成29年2月25日
  - b 場所 日本盲人福祉センター
  - c 内容 生活訓練（歩行訓練）の現状報告とパネルディスカッション
- (ス) 視覚障害リハビリテーション協会 研修会 2016年度
- a 日時 平成29年3月4日
  - b 場所 日本点字図書館
  - c 内容 視覚障害者の就労をテーマとした研修会。

② 点字図書館関係

(ア) 平成 28 年度 点字指導員講習会

- a 日時 平成 28 年 8 月 23 日、24 日、25 日
- b 場所 じゅうろくプラザ
- c 内容 大規模災害と視覚障害者、点字概論、パソコン点訳の指導ポイント、点字校正技術、点訳のてびき活用のポイント、点訳指導法、調査技術等の講座

(イ) 平成 28 年度資料保存研修会

- a 日時 平成 28 年 9 月 30 日
- b 場所 国立国会図書館東京本館 第 3 研修室
- c 内容 1. 講義「図書館資料の保存」 2. 実習「あなたにもできる図書館資料の簡易な補修」 3. 実演「簡易帙を作る」

(ウ) 平成 28 年度神奈川県視覚障害者情報提供施設連絡協議会第 1 回研究集会

- a 日時 平成 28 年 10 月 5 日
- b 場所 神奈川県ライトセンター
- c 内容 ①視覚障害者の状況について 講師 横須賀市点字図書館 青松紀野氏  
②サピエについて 講師 川崎市視覚障害者情報文化センター 小野俊己氏  
③著作権と郵便法について 講師 神奈川県ライトセンター 平井利依子氏

(エ) 第 35 回 音訳指導技術講習会

- a 日時 平成 28 年 10 月 9 日、10 日、11 日
- b 場所 霊友会 小谷ホール
- c 内容 この講習会は、視覚障害者情報提供施設・団体の録音資料制作担当指導者としての知識・技能の向上を図ることを目的に行われた。

(オ) 放送アクセシビリティ・シンポジウム

- a 日時 平成 28 年 10 月 28 日
- b 場所 弘済会館
- c 内容 放送内容を様々な障害者の特性に合わせて情報補償するための外国での取り組み、我が国での現状と課題をテーマとしたシンポジウム

(カ) 関東地区点字図書館協議会秋期研修会

- a 日時 平成 28 年 11 月 17 日、18 日
- b 場所 ホテルポートプラザちば
- c 内容 ①「教科書点訳の実際」、②「障害者スポーツの課題と展望」

③ その他

(ア) 平成 28 年度施設部会研修会「管理職のストレスケア」

- a 日時 平成 29 年 2 月 28 日
- b 場所 川崎市総合福祉センター
- c 内容 福祉施設の施設長や人事管理者を対象とした「管理職のストレスケア」をテーマとした研修会。

(19) 防災対策について

① 避難訓練

ふれあいプラザかわさき全体で避難訓練を 2 回実施、当センターも参加しました。

② 視覚障害者のための防災対策セミナー

1 月に視覚障害者の防災対策セミナーを開催し、災害への準備や心構えなど、視覚障害者が事前に準備しておくべきことをセミナー形式で伝え、AED 体験や視覚障害者向けの防災グッズなども紹介しました。今回は、熊本の地震災害の際に現地に向かい、視覚障害者の支援を行った方から、被災の状況、避難所の様子、視覚障害者の状況などを話していただいた。このようなイベントを通して、視覚障害者の防災への意識向上に貢献できるものと考えています。

③ その他

<熊本地震被災地へ職員の派遣>

昨年 4 月 14 日に発生した熊本地震に、当センターから熊本県点字図書館に被災者支援として職員 2 名を派遣しました。その一人の職員は、阪神淡路大震災の際に視覚障害者の安否確認を行い、東日本大震災の際も仙台を拠点に東北の被災地支援の経験があります。視覚障害者が災害時に周囲から孤立した状況になる恐れもあるので、全国の有志が集まり、支援を行いました。以下は、支援に向かった職員からの報告です。

<熊本地震の現地支援レポート>

4 月 26 日から 5 月 6 日まで、熊本震災における「視覚障害被災者支援」に行ってきました。私が熊本に入った 4 月 26 日には、市内のインフラが相当程度回復し、コンビニや飲食店など徐々に通常営業するところも増えていました。拠点となった熊本県点字図書館では、トイレ、風呂なども使用でき比較的恵まれた環境の中で、安否確認などの調査に向かうことができました。



阿蘇地域を担当することになり、まず、南阿蘇村を回りました。阿蘇大橋周辺の山側地域の被害が大きく、南側地域はそれほどではないことがわかりました。名簿を見ると 100 件ほど訪問する必要があり、南阿蘇村長野地区というところに複数件連絡が取れないところがありましたので、まずその場所に行くことにしました。現場を訪れるとあらためて地震の被害の大きさを目の当たりにしました。所々道路がひび割れ、山が崩れ、家が潰れ、そして傾いていました。集落の家全部にブルーシートが掛けられていました。

当事者の方の家を探し当てました。そのお宅は半分崩れかかっています。“大雨がくればそのまま潰れてしまう”と思われました。隣人の方に消息を尋ねると、ご家族全員無事で、「今は熊本市内に避難をされている」とのことでした。再度家の中を外から見ると家具などが散乱し、柱が折れていました。“よく家族全員助かったな…”というのが、率直な感想でした。



阿蘇市内の内牧(うちのまき)地区も被害の大きいところでした。内牧の山側の地区の当事者の方の家を訪ねたときは偶然在宅されていました。聞けば自宅は半壊で、昼間は室内を片付けているが夜は近くの避難所の駐車場で車の中で寝ているとのことでした。「犬がいるので避難所の中には入れない」とも言っていました。私が訪ねたのは震災から 10 日以上たっていましたから、もう 2 週間近く車で寝泊りしていることになります。こういう方が他にもいるだろうことは容易に想像できました。

避難所も回りましたが、まだボランティアの方が入っていないので、十分な情報がどこまで届いているのか疑問が残りました。担当の方に尋ねると、いずれも「目の不自由な方は、この避難所にはいない」との答えが返ってきました。“おそらく詳細な状況は掴めていない”というのが正直なところじゃないかなという印象を持ちました。しかし、担当の方に「いない」と言われれば掲示用の資料を渡し、避難所を去るしかありません。“まあ、こんなもんだろうな”と気を取り直し、淡々と安否確認のために車を走らせました。

南阿蘇村から現地での安否確認を始め、途中湯布院、別府に回り、その後阿蘇市をまわり、一段落してから、市内及び宇城(うき)市を回り、私の支援活動は終了しました。

今回の経験を関東地区で予想されている南海トラフ、首都直下型の大地震などの防災や減災にどう生かすか？ が次なる課題です。“あまり猶予はない”と思っています。

平成 28 年度川崎市視覚障害者情報文化センター  
事業概要

発行	川崎市視覚障害者情報文化センター
発行日	平成 29 年 3 月 31 日

名称	川崎市視覚障害者情報文化センター
指定管理者	社会福祉法人日本点字図書館
住所	〒 2 1 0 - 0 0 2 6 川崎市川崎区堤根 3 4 - 1 5
電話	( 0 4 4 ) - 2 2 2 - 1 6 1 1
F A X	( 0 4 4 ) - 2 2 2 - 8 1 0 5
メールアドレス	kawasaki-icc@kawasaki-icc.jp
ホームページアドレス	<a href="http://www.kawasaki-icc.jp">http://www.kawasaki-icc.jp</a>